

2010.9.18



# 名指揮者 マッケラスを偲んで



## ♪♪♪ ♪♪♪ プログラム (後半) ♪♪♪ ♪♪♪

去る7月14日、1925年アメリカ生まれ(両親はオーストラリア人)の名指揮者、チャールズ・マッケラスが亡くなりました。享年84歳。そこで今日後半のプログラムはマッケラスが晩年に残したライヴ録音をお聴き頂き、この名指揮者を偲びたいと思います。マッケラスは戦後イギリスに拠点を置いてオペラで活躍する一方、チェコに留学してチェコ音楽、特にヤナーチェクの音楽への理解を深めました。ヘンデル、モーツァルトからベートーヴェン、ブラームス、マーラー、ショスタコーヴィチに至るまで幅広いレパートリーを持っていましたが、ヤナーチェクを初めとするチェコ音楽では確固たる評価を得ていました。マッケラスの指揮は細部にこだわるより音楽をストレートに表現することで、作品の持つ生命力や美しさを引き立たせようとした。それが個性的と聴こえることもあります。常に新鮮な音楽を提供してくれる貴重な存在であったように思います。

\*\*\*\*\*

### ウォルフガング・アマテウス・モーツァルト (1756~1791): 交響曲第40番ト短調K.550 全曲

※モーツァルトの短調で書かれた交響曲は第25番とこの第40番だけで、ともにト短調で書かれています。第25番も大変優れた作品ですが、この第40番は1788年の6月26日から8月10日のわずか1ヶ月半の間に書き上げられた最後の三大交響曲のひとつで、モーツァルトを代表する傑作です。激情する悲劇性を持っているにも関わらず、モーツァルト特有の優雅さをも持ち合わせた稀に見る名曲。

チャールズ・マッケラス指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団  
(2008. 12. 18 ウィーン・ムジークフェラインサールでのLive)

### レオシュ・ヤナーチェク (1854~1928): シンフォニエッタ

1. ファンファーレ
2. 城 (ブルノのシュピルベルク城)
3. 修道院 (ブルノの王の修道院)
4. 街頭 (古城に至る道)
5. 市役所 (ブルノ市役所)

※ソコル(チェコの体育協会)の参事会員であったヤナーチェクがこの協会のために作曲したファンファーレを基に曲を自由に成長、発展させて行った作品で、74歳の時に書かれたヤナーチェクの代表作です。村上春樹のベストセラー小説「1Q84」に登場したことがきっかけで突如として注目を浴びています。

チャールズ・マッケラス指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団  
(2004. 1. 22 ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive)